

I アンケート調査の概要

1 調査目的

博士前期課程2年次学生の進路にかかわる意向調査で大学生活において、充実した進路・キャリア形成の機会を作ることを目的として実施

2 実施期間

令和5年4月4日～5月16日

3 実施方法

調査対象: 令和4年度博士前期課程2年次生
調査方法: 学務情報システムアンケート機能を利用

4 回答状況

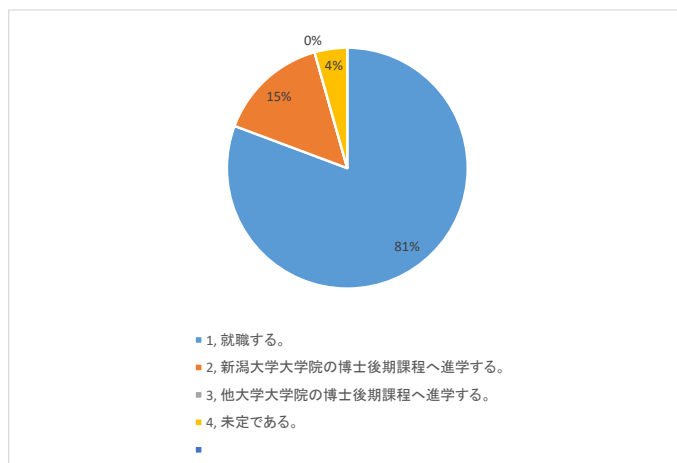
学生数: 525名 回答数: 114名 回収率: 21.7%

II アンケート集計結果

修士2年アンケート結果

設問1 博士前期課程修了後の進路:現時点で予定をしている博士前期課程修了後の進路について教えてください。【4者択1】(必須)

- | | |
|-------------------------|----|
| 1. 就職する。 | 92 |
| 2. 新潟大学大学院の博士後期課程へ進学する。 | 17 |
| 3. 他大学大学院の博士後期課程へ進学する。 | 0 |
| 4. 未定である。 | 5 |

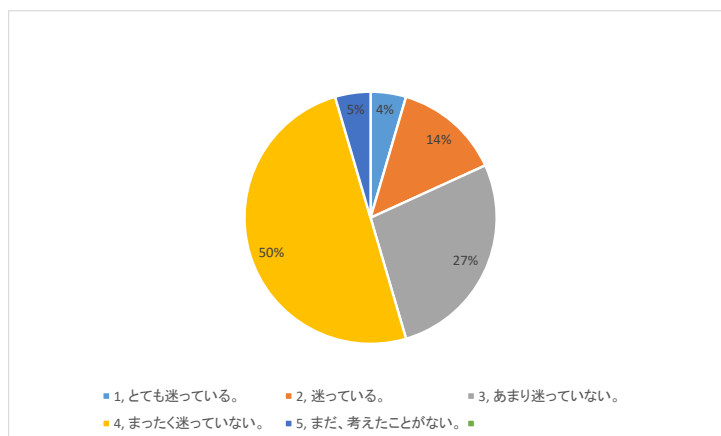


- 81%の学生が就職を希望しており、本学の後期課程には14.9%の学生が進学を希望している。
- 昨年度就職希望は83%。昨年度進学希望は17人(15.3%、うち他大学希望1人)。

【注】設問1で「1.就職する」を選択した学生は設問9へジャンプするので、以下設問2から8までは進学を検討している学生に対する設問となる。

設問2 博士後期課程進学を検討:設問1の博士前期課程修了後の進路について、意思決定の度合いを教えてください。【5者択1】(必須)

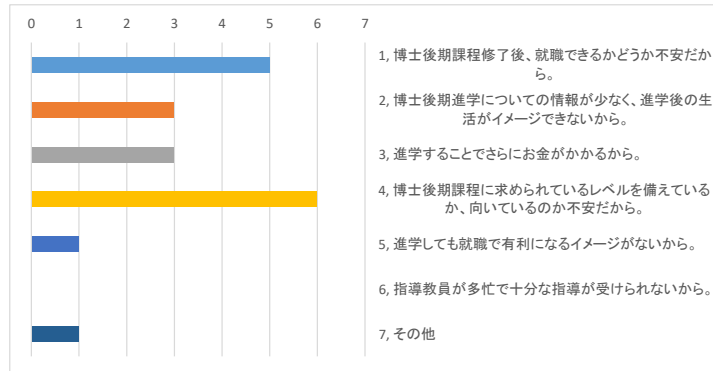
- | | |
|-----------------|----|
| 1. とても迷っている。 | 1 |
| 2. 迷っている。 | 3 |
| 3. あまり迷っていない。 | 6 |
| 4. まったく迷っていない。 | 11 |
| 5. まだ、考えたことがない。 | 1 |



- 前質問で未定であると回答した5名中4名が進学を迷っていると解釈される。

博士後期課程進学を検討:設問2の質問で1~3のいずれかを回答した方にお伺いします。
 修士前期課程修了後の進路について、迷っている理由を教えてください。【7者択7】※最低1個の選択肢を選択してください。

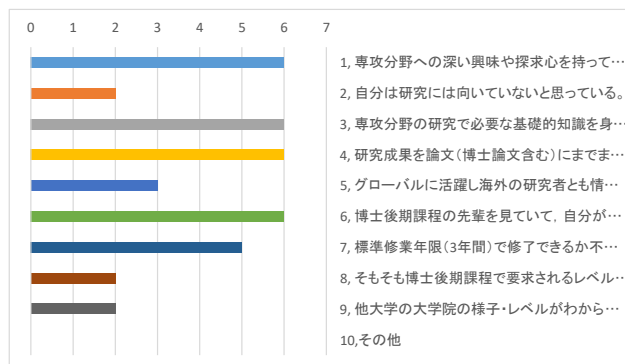
- | | |
|---|---|
| 1. 博士後期課程修了後、就職できるかどうか不安だから。 | 5 |
| 2. 博士後期進学についての情報が少なく、進学後の生活がイメージできないから。 | 3 |
| 3. 進学することでさらにお金がかかるから。 | 3 |
| 4. 博士後期課程に求められているレベルを備えているか、向いているのか不安だから。 | 6 |
| 5. 進学しても就職で有利になるイメージがないから。 | 1 |
| 6. 指導教員が多忙で十分な指導が受けられないから。 | 0 |
| 7. その他 | 1 |



●進学を躊躇する理由としては、自身の研究能力に次いで終了後の就職に関するものが多い。
 昨年度に比べて「お金」に関する不安の順位は下がっている。

設問4 設問3で「4. 博士課程に求められているレベル…」と回答した方にお伺いします。
 不安である理由としてはどのようなものが考えられますか。【10者択10】(複数回答可)

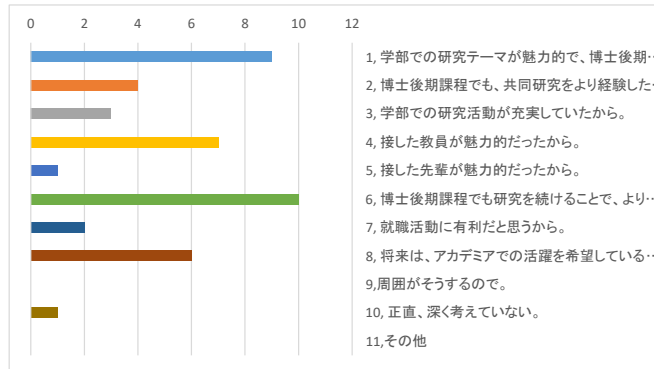
- | | |
|--|---|
| 1. 専攻分野への深い興味や探求心を持っているか、研究が本当に好きかどうか現段階では自分でも分からない。 | 6 |
| 2. 自分は研究には向いていないと思っている。 | 2 |
| 3. 専攻分野の研究に必要な基礎的知識を身につけているか不安がある。 | 6 |
| 4. 研究成果を論文(博士論文含む)にまでまとめることができるか不安。 | 6 |
| 5. グローバルに活躍し海外の研究者とも情報交換できるか不安。(語学力) | 3 |
| 6. 博士後期課程の先輩を見ていて、自分が研究についていけるか不安がある。 | 6 |
| 7. 標準修業年限(3年間)で修了できるか不安がある。 | 5 |
| 8. そもそも博士後期課程で要求されるレベルが分かっていない。 | 2 |
| 9. 他大学の大学院の様子・レベルがわからない。 | 2 |
| 10. その他 | 0 |



●前設問の回答で最も多かった、後期課程への進学にあたって要求される能力に関する不安の具体的な内容としては、自分が本当に研究に向いているか、またはその能力が備わっているか確信が持てないことが多いと思われる。

博士後期課程進学の見直し: 設問1: 博士後期課程修了後の進路について、2.新潟大学大学院の博士後期課程へ進学する。を選択した方へお伺いします。
 設問5 博士後期課程への進学を検討することに影響のある観点を選択してください。(推奨3点選択)【11者択3】

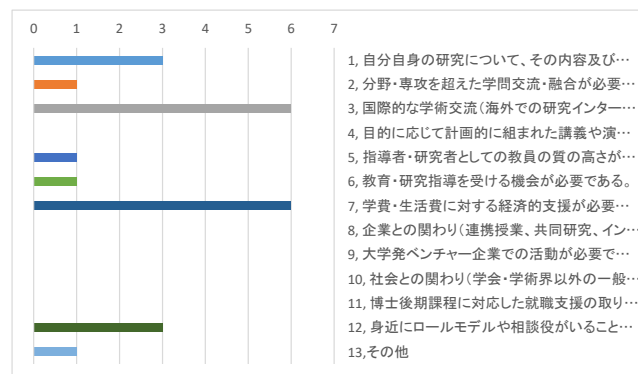
- | | |
|---|----|
| 1. 学部での研究テーマが魅力的で、博士後期課程でもその研究を継続したいから。 | 9 |
| 2. 博士後期課程でも、共同研究をより経験したいから。 | 4 |
| 3. 学部での研究活動が充実していたから。 | 3 |
| 4. 接した教員が魅力的だったから。 | 7 |
| 5. 接した先輩が魅力的だったから。 | 1 |
| 6. 博士後期課程でも研究を続けることで、より成長できると思うから。 | 10 |
| 7. 就職活動に有利だと思うから。 | 2 |
| 8. 将来は、アカデミアでの活躍を希望しているから。 | 6 |
| 9. 周囲がそうするので。 | 0 |
| 10. 正直、深く考えていない。 | 1 |
| 11. その他 | 0 |



●進学を決定するうえで、研究テーマに魅力あり自身がより研究活動を通して自身が成長できるかが重要と考える学生が多い。トップ4は昨年度と変わらず。

博士後期課程進学改善への取組み: 新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程が今よりさらに魅力的になり、進学を前向きに検討するためには、どのような活動や研究の舞台、仕組みが充実するべきだと思いますか。【13者択13】(必須)

- | | |
|--|---|
| 1. 自分自身の研究について、その内容及び時間に裁量があること。 | 3 |
| 2. 分野・専攻を超えた学問交流・融合が必要である。 | 1 |
| 3. 国際的な学術交流(海外での研究インターンシップ、海外の大学への留学、国際学会、海外機関との共同研究など)が必要である。 | 6 |
| 4. 目的に応じて計画的に組まれた講義や演習が必要である。 | 0 |
| 5. 指導者・研究者としての教員の質の高さが必要である。 | 1 |
| 6. 教育・研究指導を受ける機会が必要である。 | 1 |
| 7. 学費・生活費に対する経済的支援が必要である。 | 6 |
| 8. 企業との関わり(連携授業、共同研究、インターンシップなど)が必要である。 | 0 |
| 9. 大学発ベンチャー企業での活動が必要である。; | 0 |
| 10. 社会との関わり(学会・学術界以外の一般社会に向けた情報) | 0 |
| 11. 博士後期課程に対応した就職支援の取り組みが必要である。 | 0 |
| 12. 身近にロールモデルや相談役がいることが必要である。 | 3 |
| 13. その他 | 1 |

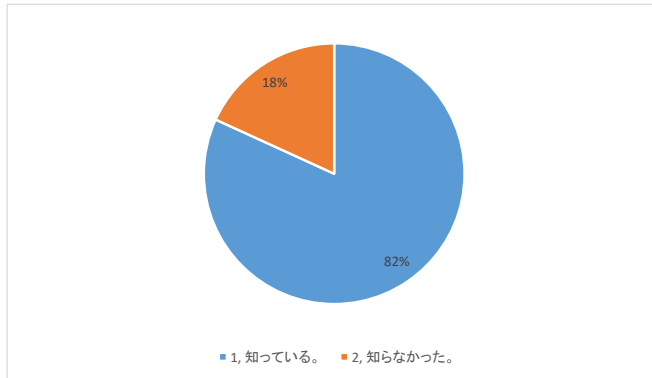


- 学生は国際的な学术交流の必要性を感じているとともに、経済的な面での支援を求めている。
- 就職希望者を含むM1や昨年度のM2の回答とは傾向が異なり、上位であった「就職支援」や「企業との関わり」がゼロである。博士進学者の特徴が出ているとも考えられる。M2になると「裁量」は減る傾向にあるようだ。

設問7 博士後期課程進学を支援する返還不要の奨学金制度(学振DC、フェローシップ、次世代事業:いずれも年間200万円程度支給)があることは知っていましたか？【2者択1】(必須)

1. 知っている。
2. 知らなかった。

18
4

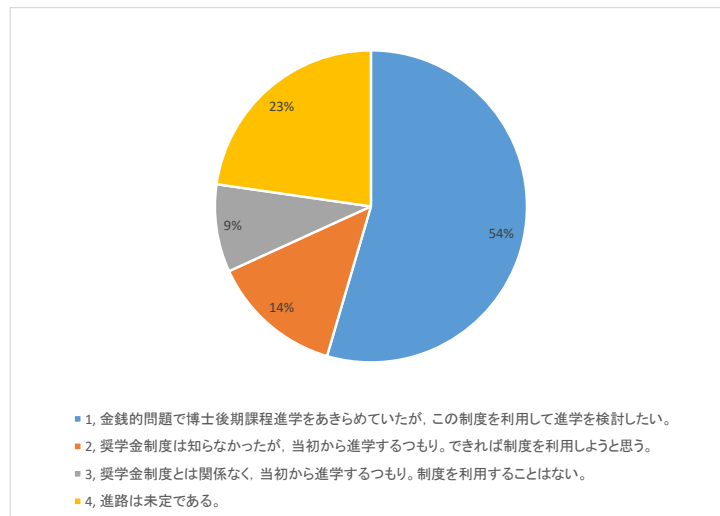


- 後期課程進学者を対象とした奨学金制度については80%以上の学生は認知している。
- 昨年度のアンケートは就職希望者が多数含まれていたためか57.7%。

設問8 設問7: の奨学金制度があれば、博士後期進学を検討する材料にはなりますか？【4者択1】(必須)

1. 金銭的問題で博士後期課程進学をあきらめていたが、この制度を利用して進学を検討したい。
2. 奨学金制度は知らなかったが、当初から進学するつもり。できれば制度を利用しようと思う。
3. 奨学金制度とは関係なく、当初から進学するつもり。制度を利用することはない。
4. 進路は未定である。

12
3
2
5

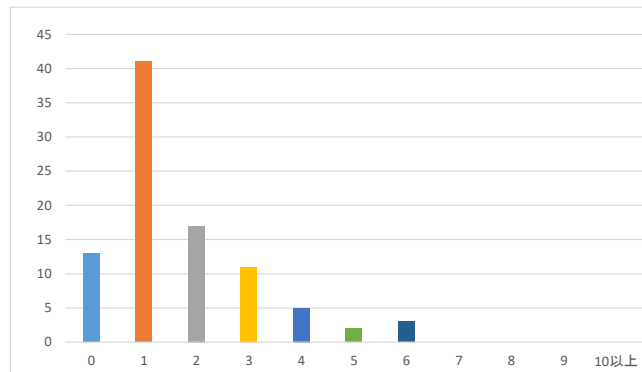


- 奨学金制度の存在は68%の学生に対して進学への後押しをしていると思われる。奨学金を前提で進学を考えている可能性がある。

設問9以降は、設問1で「就職する」と回答した学生を対象としている。

設問9 アンケート回答時点で内定を得ている企業の数を選択してください。

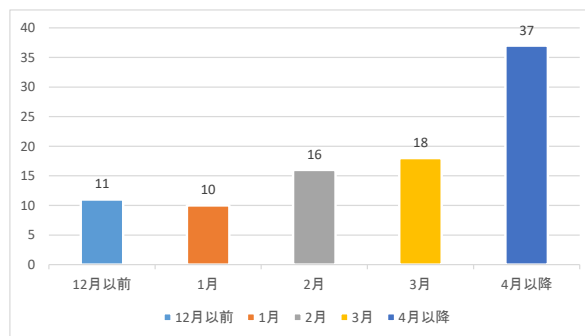
0	13
1	41
2	17
3	11
4	5
5	2
6	3
7	0
8	0
9	0
10以上	0



●修士2年の4月の段階で既に回答者の85%以上の学生が1社以上の内定を得ている。

設問10 最初の内定が出たのはいつ頃ですか。

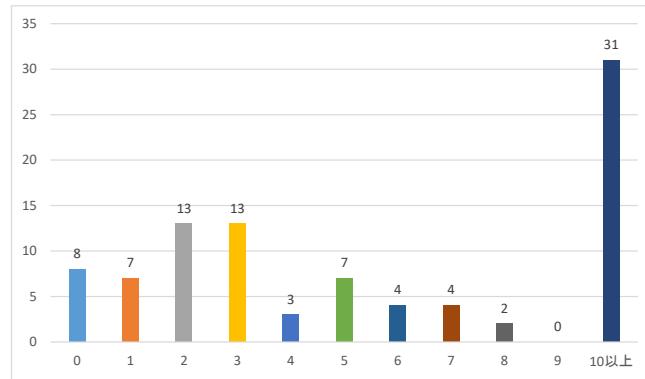
12月以前	11
1月	10
2月	16
3月	18
4月以降	37



●内定を得たのは4月以降という回答が多いが、中には12月以前という回答も10%程度ある。

設問11 企業の主催する1dayインターンシップ等に参加した回数を選択してください(一度も参加したことのない方は0を選択してください。)

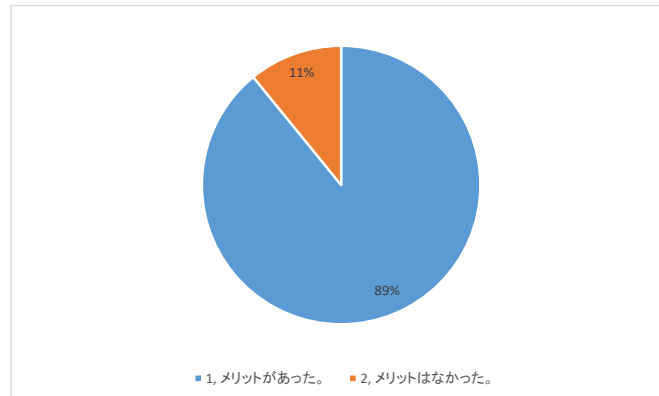
0	8
1	7
2	13
3	13
4	3
5	7
6	4
7	4
8	2
9	0
10以上	31



●就職を希望する学生のうち90%近くの学生が1dayインターンシップに参加しており、10回以上参加したという学生も34%ほどいる。

設問12 1 dayインターンシップ等に参加したメリットはありましたか。【2者択1】(必須)

- 1, メリットがあった。 82
- 2, メリットはなかった。 10

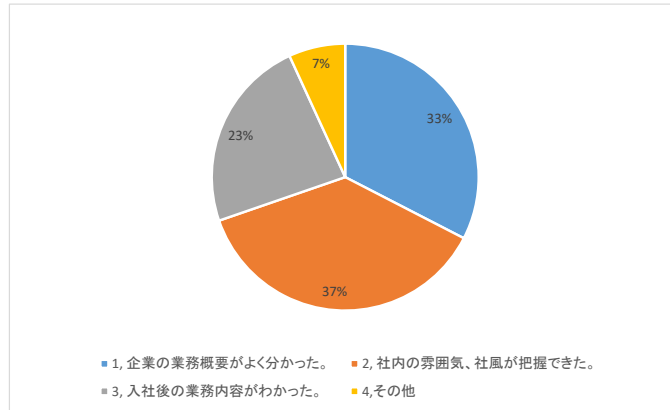


●1dayインターンシップの参加した学生のうち89%は短期間にもかかわらずメリットがあったと回答している。

設問13 設問5で「1. メリットがあった」と回答された方にお伺いします。
その理由を選択してください。(複数回答可)

1. 企業の業務概要がよく分かった。
2. 社内の雰囲気、社風が把握できた。
3. 入社後の業務内容がわかった。
4. その他

57
65
41
12

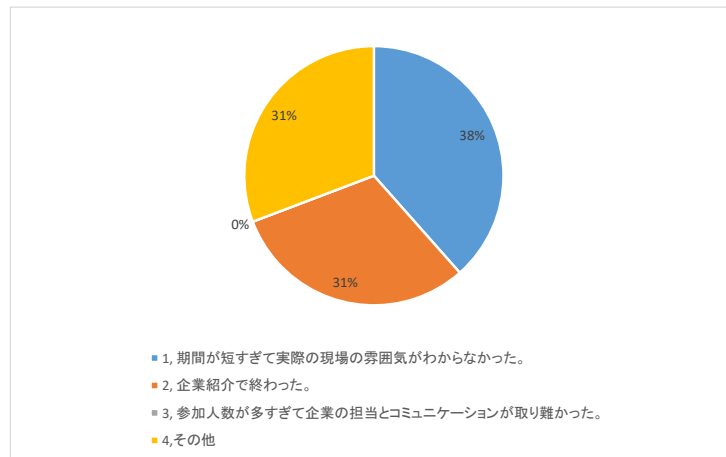


●メリットの内訳としては、企業の業務内容などの情報が得られたという回答が多いが、1dayにもかかわらず社内の雰囲気や社風が把握できたという回答も多い。また選択肢以外のその他の回答では参加することによって早期選考の案内をもらうことができたというものが多かった。

設問14 設問5で「2. メリットはなかった」と回答された方にお伺いします。
その理由を教えてください。(複数選択可)

1. 期間が短すぎて実際の現場の雰囲気がわからなかった。
2. 企業紹介で終わった。
3. 参加人数が多すぎて企業の担当とコミュニケーションが取り難かった。
4. その他

5
4
0
4

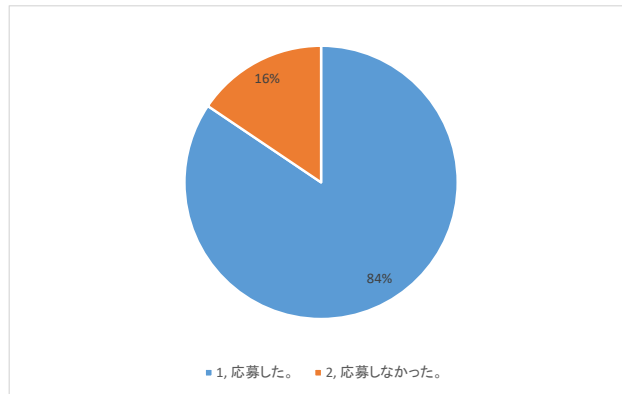


●メリットがなかったという回答の内訳では、知りたい内容が得られなかったというものが多く、参加人数の多さを問題視する回答はなかった。
●インターンシップの選考で落とされるケースもある。

設問15 インターンシップ参加企業に実際に採用応募しましたか。【2者択1】(必須)

- 1, 応募した。
- 2, 応募しなかった。

76
14

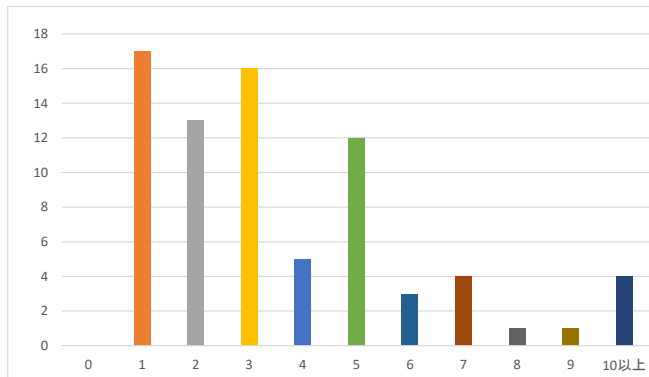


●インターンシップに参加した学生のうち90%に学生がその企業に採用応募している。

設問16 インターンシップに参加した企業のうち何社に応募しましたか？

- 0
- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10以上

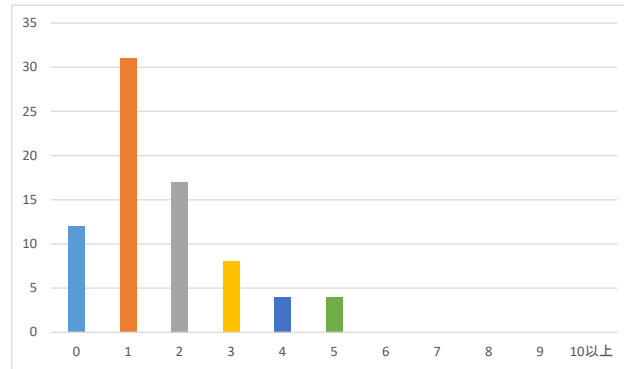
0
17
13
16
5
12
3
4
1
1
4



●実際に応募した企業数は3社以下が60%ほどで5社以下まで含めると全体の83%を占める。10社以上応募したという学生も何名かいる。
●インターンシップしないで、採用応募に臨んでいる学生も相当数いる(インターンシップが採用選考に必須ではないことは理解されている)。

設問17 インターンシップに参加した企業のうち何社から内定を得ましたか。

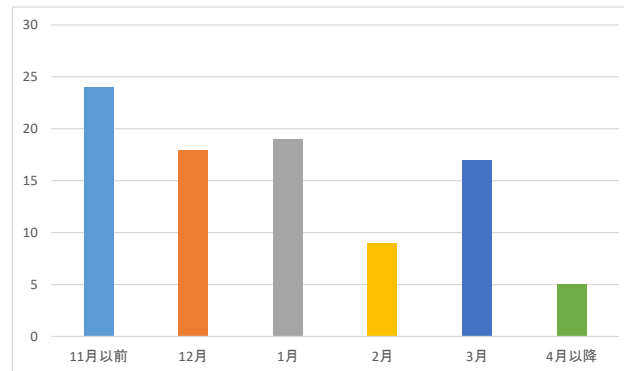
0	12
1	31
2	17
3	8
4	4
5	4
6	0
7	0
8	0
9	0
10以上	0



●調査時点で84%の学生が内定を得ているが、1、2社という学生が多い。

設問18 選考採用のエントリーシートの提出は何月ころから行いましたか。

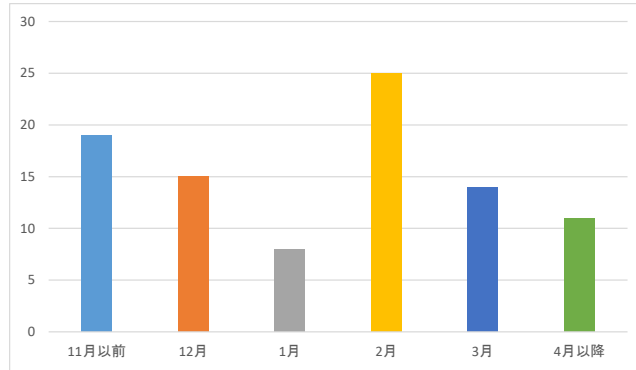
11月以前	24
12月	18
1月	19
2月	9
3月	17
4月以降	5



●エントリーシートの提出時期は分散している。具体的な時期は不明だが26%の学生は11月以前に提出済みである。

設問19 最初に選考面接を受けたのは何月ころですか。

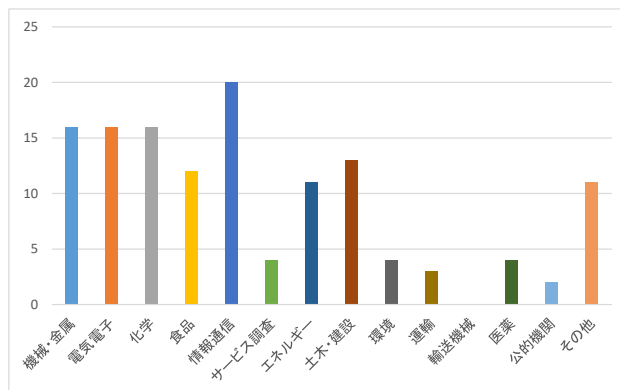
11月以前	19
12月	15
1月	8
2月	25
3月	14
4月以降	11



- 最初に選考面接を受けた時期は2月が最も多くなっているが、11月以前等回答も20%ほどある。
- 6月1日解禁前にすでに多くの企業で選考面接が行われていることが分かる。

設問20 内定を得た業界はどのようなところですか。以下から選んでください。(複数回答可)

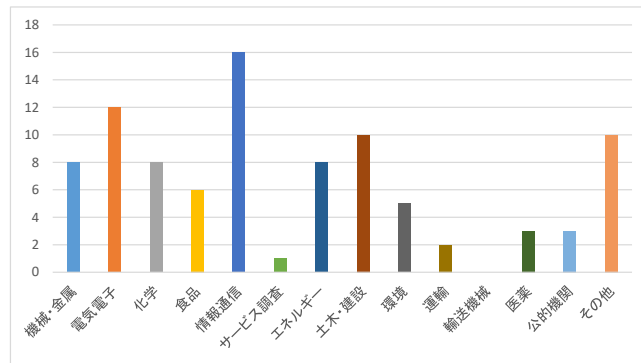
機械・金属	16
電気電子	16
化学	16
食品	12
情報通信	20
サービス調査	4
エネルギー	11
土木・建設	13
環境	4
運輸	3
輸送機械	0
医薬	4
公的機関	2
その他	11



- 情報通信の内定が出るのが早い。自動車関連の輸送機械の内定が出ていないのは興味深い。

設問21 就職を決めた業界はどのようなところですか。以下から選んでください。

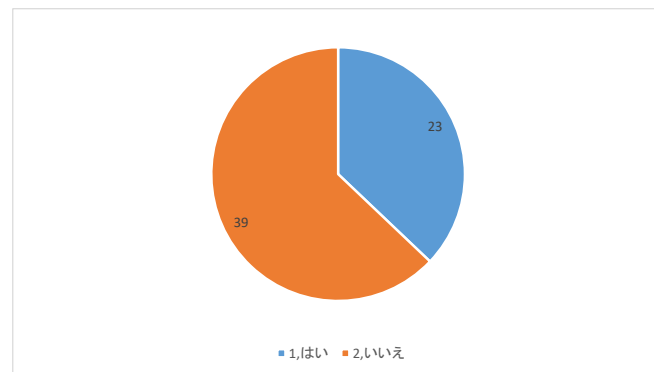
機械・金属	8
電気電子	12
化学	8
食品	6
情報通信	16
サービス調査	1
エネルギー	8
土木・建設	10
環境	5
運輸	2
輸送機械	0
医薬	3
公的機関	3
その他	10



●前設問の回答数と比較して、内定を得た業界のうちでそのまま就職を決めた割合は、情報通信、電気電子、エネルギー、土木・建設などで高くなっている。

設問22 就職を決めた企業は新潟県内の企業(機関)または県内に事業所を持つ企業(機関)ですか。【2者択1】(必須)

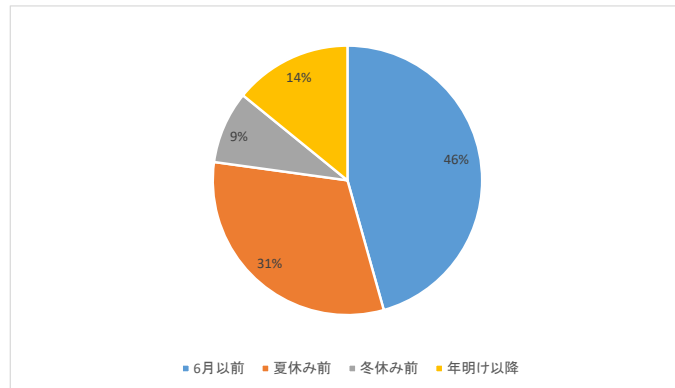
1.はい	23
2.いいえ	39



●調査時点で40%の学生が就職先を新潟県内に決めている。

設問23 就職先の情報収集は博士前期課程1年のいつ頃から始めましたか。

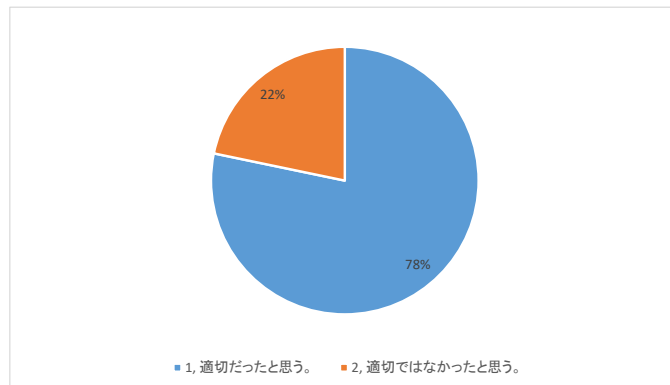
6月以前	42
夏休み前	29
冬休み前	8
年明け以降	13



●80%近くの学生が修士1年の夏休み前から情報収集を始めている。

設問24 情報収集を始めた時期は適切でしたか。【2者択1】(必須)

1. 適切だったと思う。	72
2. 適切ではなかったと思う。	20

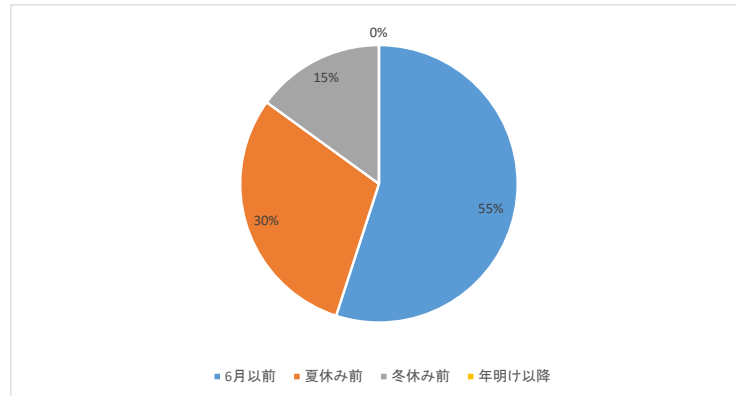


●適切だと思うという割合が、前設問の夏休み前の開始割合とほぼ一致していることから、それ以降に情報収集を開始した学生は出遅れ感を感じていたと思われる。

設問25 情報収集はいつ頃から始めればよかったと感じていますか。

- 6月以前
- 夏休み前
- 冬休み前
- 年明け以降

11
6
3
0

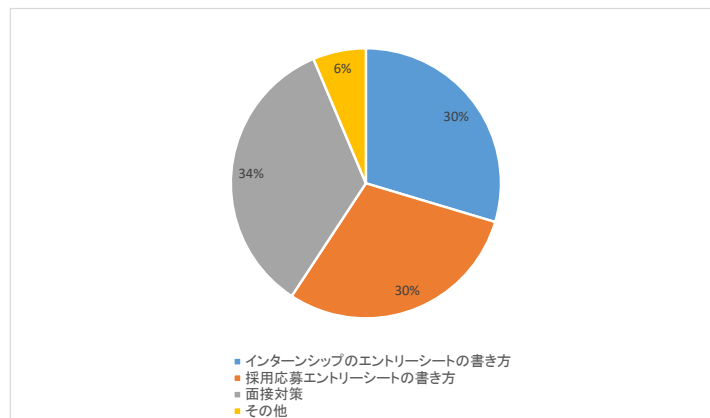


●前設問で適切ではなかったと回答した中では、やはり夏休み前が適切だったと回答している割合が85%程になっている。

設問26 就活で教えて欲しい情報は何か。(複数回答可)

- インターンシップのエントリーシートの書き方
- 採用応募エントリーシートの書き方
- 面接対策
- その他

56
56
65
12

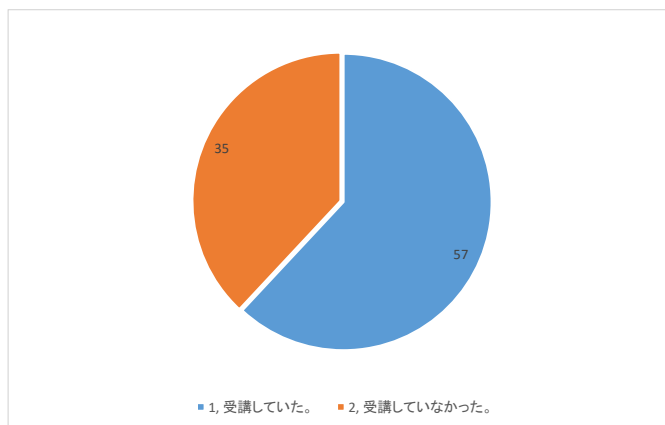


●あまり大きな偏りがなくそれぞれの項目について情報が必要と回答している。

設問27 もしエントリーシートの作成法についてのガイダンスなどがあったら、あなたは受講していましたか。【2者択1】(必須)

1. 受講していた。
2. 受講していなかった。

57
35

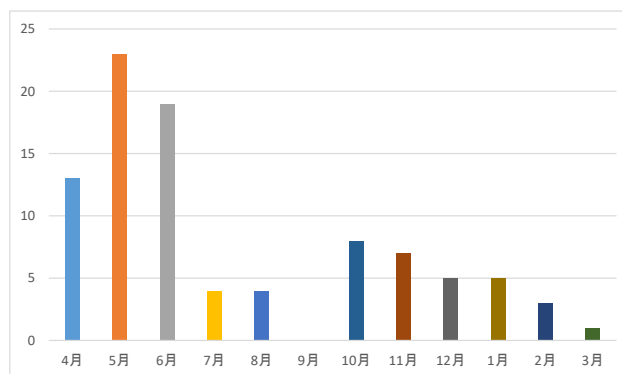


●前設問の回答でエントリーシートの書き方の情報を必要としている学生は、そのまま受講を希望しているものと思われる。

設問28 上記のガイダンスがあるとすれば何月頃が最適だと考えますか。

- 4月
- 5月
- 6月
- 7月
- 8月
- 9月
- 10月
- 11月
- 12月
- 1月
- 2月
- 3月

13
23
19
4
4
0
8
7
5
5
3
1



●ガイダンスの実施時期は、情報収集の開始時期と符合していて、6月以前が圧倒的に多い。